深イ～話！ No.6

このお話は、「どんな仕事も楽しくなる３つの物語」という本の中の“人であふれた駐車場”から抜粋させていただきました。

当時、私は新宿に事務所を構えていました。そこから100メートルほど離れたところに駐車場があり、いつもそこに駐車していました。その駐車場には、いつでも元気で明るい、60歳をすぎたばかりの管理人のおじさんが働いていました。

ある日、駐車場に着いた頃、どしゃ降りの雨で傘もなくて、車から出ることができずにいると、管理人のおじさんが走り寄ってきました。

「傘、忘れたんじゃない？　ちょうど今降り出したばかりだから・・・。これ、持っていきなよ。」と言って、自分の傘を差し出してくれたのです。

「でも、それっておじさんの傘じゃないの？」

「いいんですよ。とにかく、持っていってください。」

管理人のおじさんは、いつもこんな調子で自分のことよりお客さんのことばかり考えてくれるような人でした。

他にも管理人さんは3～4人いて、交代で仕事をしていました。他の人は、満車になると、看板をたてて、ロープを張った後は、小さな管理人室で漫画の本を読んだり、一人で囲碁をやったりして時間をつぶしています。

しかし、そのおじさんは、満車になるとロープの外に立って、申し訳なさそうに深々と頭を下げ続けているのです。雨の日も風の日も・・・

「あそこまでしても、他の人と給料は変わらないのに・・・」と私はいつも思っていました。

ある日、おじさんは「実は今週いっぱいで、この仕事をやめることになりました。妻が肺を患ってしまったので、空気のきれいな田舎で暮らすことにしたんですよ。」と言ってきたのです。

そして、今日が最後という日、私は今までの感謝の気持ちで、おじさんに手土産を持っていったのです。駐車場に着いて、信じられない光景を目にしたのです。

小さな管理人室には、色とりどりの綺麗な花束がいっぱい積み上げられていました。ドアの横には、置ききれなくなったお土産が1メートル以上の高さに2列も、積み上げられています。駐車場の中にはたくさんの人でごった返し、あちこちから感謝の声が聞こえてきます。もちろん、その中心には、おじさんがいました。

《つまらない仕事なんかない。仕事にかかわる人の姿勢が仕事を面白くしたり、つまらなくしたりしているにちがいない。》　私は管理人のおじさんから学びました。